

研究雑話(155)

障害児教育・動作学誌上実習(73)

藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(53)

／開く／、／開かない／、動詞・活用時の母音交替。

前回は、日本語・母音を発音する第1と第2の関係がそれで、高舌・ときの口腔での共鳴のさせ方から、前舌母音、／い／は、前者で最も低い周波数(F1)、後者で最も高い周波数(F2)にあり、これを発音する

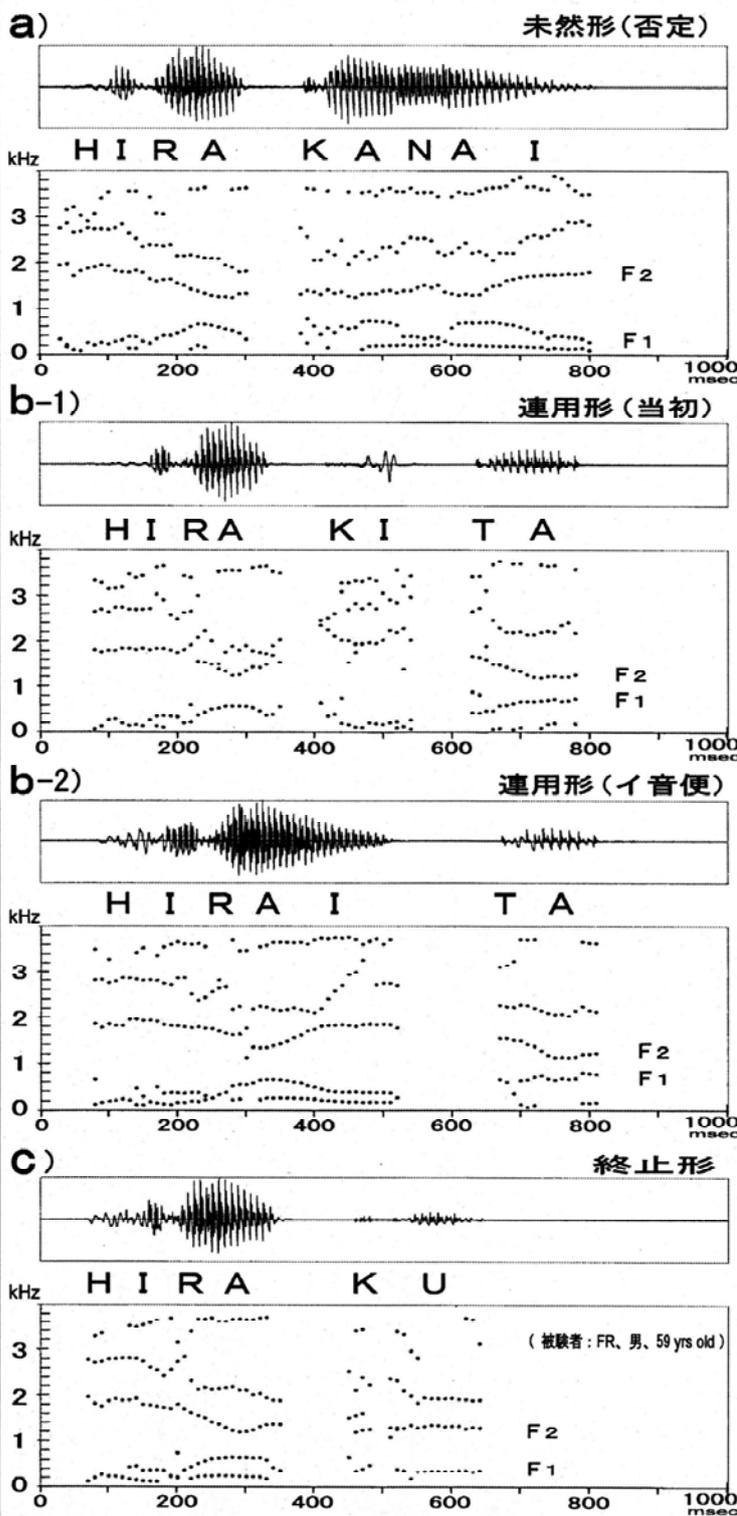
ことは、母音調音に一つの基準を提供するのでした。動詞活用時の母音交替でも、／い／列は特別です。「開いて」、「飲んで」等、音便を誘発しました。何故なのか。今回は、フォルマント図譜からその実相に接近したいと思います

ば、ことばの発達は本物です。2歳児後半でしょうか。「ない」への接続が／あ／列というもの、たいへん興味深いことです。図a、／HIRAKA NAI／、私の発音です。音声スペクトルの分析から、共鳴周波数、フォルマント・第1(F1)と第2(F2)の関係を図譜しました。間隔の広い／い／と、F1が高く、間隔の狭い／あ／。後者・／あ／を用意しながら、軟口蓋破裂音/K/から歯茎鼻音/N/へと移動。アクセントも、／RA・KA/で維持されています。

終止形は、／う／列：動詞の終止形がすべて／う／列というもの、興味深い。図c、／HIRAKU/。／う／は、／い／について共鳴周波数・F1が低く、終止感には最適です。

／開きた／から／開いた／、子音脱落の効果：「開きます」、「開き続ける」、用言への接続は、／い／列です。動作の接続に、母音調音の一基準・／い／列が用いられたということです。結び付けの結果として、ここで何らかの変化が起きても自然なことです。平安時代当初、「開きた」であったものが、鎌倉時代には「開いた」と、子音が脱落したとされています。図b-1)と2)。「書いた」、「脱いだ」も同じで、カ行、ガ行の動詞が、接続助詞「て」や助動詞「た」と接続するときです。軟口蓋破裂音/K/や/G/が、歯茎破裂音/T/・/D/に続くとき、子音脱落を来し、CVVとしての音節結合を強めたのでした。／RAI/としてのまとめ、及び内部でのF1周波数の高低差が、明瞭です。

「開く」・動詞活用変化時・フォルマントにみる母音交替。



「開く」、5段・母音交替：／あ／列・「開かない」(未然・否定)。／い／列・「開きます」(連用)。／う／列・「開く」(終止)。／え／列・「開けば」(假定)。「開け」(命令)。／お／列・「開こう」(未然・志向)

「ない」が使えるということ：／開く／、／開かない／、動詞の否定形が使えるようになれ